

11月。朝寒(あさざむ)。冷えてきました。世はコロナ、季節の催しも思うに任せず。しかし、天は動き季節は巡る。先月の10月30日は1年で一番小さい満月でした。金木犀(キンモクセイ)の香り、虫の声、虫時雨(むししぐれ)。五感で感じましょう。



来年はハワイに行こう

長崎の新型コロナ感染、このところ静か。以前、伝言板に長崎は落ち着いていると書いた途端に増えたので言いたくはないのですが沈静化しているのは事実です。インフルエンザもまだ来ません。このままずっと静かなのか、嵐の前か。平穏を祈るのみ。

当院でも少しずつ規制を緩和しています。面会も制限付きながら可能になりました。退院前の家屋チェックや試験外泊なども注意しながら再開しています。今年のお盆の時期には職員の帰省や家族が戻ってくることも自粛としていました。寂しい思いをしたと思います。今度の年末年始に向けては帰省や旅行を可能としました。もちろん、可能な限りの感染対策や感染の危険のある場所や行為を避けるのが前提です。自分たちが行動を律することができるかどうか、コンプライアンスの遵守ができるかどうか。当院の今後、大きく言えば日本の今後がかかっています。

COVID-19では医療業界も大きなダメージを受けています。コロナ患者を受け入れる病院ではスタッフが必死で頑張っています。

心無い中傷や差別まで受けながらも働き続けていたいただいたおかげで医療崩壊にもなっていません。



直接受け入れていない病院でも発熱患者の対応や院内感染対策など神経を尖らせています。医療機関はどれも重圧を受け続けています。経営でも先日の試算で医療機関全体で収入が8%減っているそうです。病院の利益率は良くて数%でしょうから多くは大赤字でしょう。細かい話ですが、病院のマスクや手袋がやっと少しずつ入荷し始めています。しかし、単価は以前の5-10倍に値上がり。マスクや手袋を捨てる手が鈍ります。

誰もが感染が心配ですし外には出たくありませんでした。当院でも、入院も外来も患者さんが減りました。最近はずっと病院の日常も戻り、患者さんも戻ってきていますがまだまだです。どの病院も患者が減り、収入が減少し経営が苦しいのは事実。当院の法人の会議でも明るい報告はありません。皆下を向くことが多い。空気が重い。先日の暗い会議の最後に理事長の言葉。「病院はどれもコロナで調子がよく無い。だから自分たちも仕方がない、しょうがないで良いのか。今年は新年会も、新人歓迎会も社員旅行もなかった。忘年会もない。気持ちが暗い。こんな時こそ何とか知恵を出して頑張って 来年は社員旅行はハワイへ行こうぐらいの気持ちで行きましょう」。その通りだと思います。けだし名言。コロナから受ける実際の影響は確かに大きい。しかし、精神的なダメージはさらに大きいかもしれない。外に出ない、体は動かさない、会話は減る、日常にメリハリがなくなり、楽しみがない。全てがコロナに支配される。耳にするニュースも今日は患者数に始まり、収入が減った、会社が潰れたというマイナスの話ばかり。体も、頭も、気持ちも衰える。社会全体が「コロナ鬱(うつ)、コロナパニック」。

こんな時こそ目線を上げよう、楽しいことを考えよう。できることはたくさんある。再開も良し、新しい試み、コロナだからこそその企画などいろいろある。外にはまだ自由に出かけにくい。しかし心も内向きでは始まらない。心は外に、上に。何か面白いこと、新しいこと、できることはないか。キョロキョロと。(昔、浜口町に 接待を伴うお店「ハワイ」がありました。その「ハワイ」でも鳥取県「羽合町」でもありません🍷)(A.S.)

